

平成27年度第5回 市長と話そう、まち育てタウンミーティング (全体版)

- 1 日 時 平成28年1月6日(水) 午後3時30分～4時40分
- 2 場 所 市役所本庁舎5階第1会議室
- 3 参加者 北上市民俗芸能団体連合会の皆さん
会長 和田 國男さん
副会長 田鎖 久一さん、菅原 晃さん
事務局 昆 美知男さん
- 4 市出席者 高橋市長、小原教育長、今野商工部長、阿部教育部長
及川商業観光課長、高橋文化財課長
(事務局) 及川広聴広報課長、同課 高橋課長補佐、石田主任
- 5 懇談テーマ
 - (1) 民俗芸能の保存と学校教育の関わり
 - (2) 学校の統合と各地区の芸能の継承
 - (3) 民俗芸能ファンの拡大

6 懇談内容

はじめに

市長：私のおいも小さい頃から鬼剣舞の団体に入っています。活動を通じて礼儀や人間関係などを学ぶことができ、今では団体のリーダーとして活動しているのを見るにつけ、地域で育ててもらっていると感じます。こういった文化が地域で伝承されていることについては良いことだと思いますが、その一方で後継者不足という課題も感じております。皆さんとはお会いすることは多いのですが、改めて民俗芸能についてじっくりお話する機会が少なかったもので、本日はぜひとも活発な意見をいただきたいと思います。

和田会長：私たち北上市民俗芸能団体連合会（以下連合会）は、最盛期には100団体近く加盟しておりましたが、徐々に減少し、現在64団体で活動しております。私は岩崎鬼剣舞の一員として芸能を指導しております。近いところではいわさき認定こども園やスポーツ少年団、鬼剣舞クラブ、北上翔南高校など。県外では京都や名古屋、シドニーからも指導を受けにいらっしゃいます。しかし会長の立場としては難しい。母体となる農村の活力も無くなっているのかなというところもありますが、やはり地域の元気を残していきたいという気持ちがあります。

民俗芸能が抱える課題について

課題1 民俗芸能の育成、強化

菅原副会長：多くの芸能団体が抱える問題は後継者の確保です。次世代に継承していなくては地域の宝である伝統芸能が失われ、地域の躍動感そして祭りが消える恐れすらあります。伝統芸能の観光資源化については全国各地で取り組

みが行われていますが、北上市でも全国に先駆けて北上・みちのく芸能まつりを開催し、様々な場所で民俗芸能が市の看板として活用されております。今後も民俗芸能を市の顔として位置付け、独自のまちづくりを推進するために行政と協働で取組みを進めたいと考えます。

そのための第1の方策は民俗芸能の保存継承です。具体的には芸能発表の場の提供、補助金の支援及び学校教育の場における伝統芸能の浸透です。これは世代間の断絶等の解決のみならず郷土への誇りを育むものではないでしょうか。また、事務局に対してですが、行政と団体側が互いに連携・協調する姿勢を持って会の自主的な活動を維持しつつ、運営活動が促進されるよう支援いただきたいと思います。

第2に公的な公演の場の確保と適正な謝礼金をお願いします。団体にとって出演は大きな刺激になりますし、その際の謝礼金は活動・伝承に係る補助として役立つものです。子どもや女性が演じるものであっても同様の配慮を検討願います。

第3として民俗芸能の市指定、県指定について積極的に行っていただくとともに、鬼剣舞連合会として県の指定ができないものか検討願います。

課題2 民俗芸能によるまちの活性化

菅原副会長：北上みちのく芸能まつりについては今年で55回を迎えますが、芸能団体がまつりに積極的に参画できるような位置付けを検討いただきたいと思います。また、民俗芸能に関わる部署は現在商工部、教育部、まちづくり部と別れておりますが、民俗芸能という文化芸術分野と観光振興という分野の連携及び継続性のある施策の推進のため、当連合会が各団体との橋渡しをし、文化芸術と観光振興の一体化の一翼を担いたいと考えます。

懇談

(1) 民俗芸能の保存と学校教育の関わり

市長：民俗芸能の保存については全国的に苦勞していますが、同時に様々な取組みがあります。ある小学校では毎年6年生が5年生に民俗芸能を指導し、5年生が合格するのを会の卒業の要件としている所もあるようです。5年生がちゃんと覚えなといけないので6年生は真剣です。そういった仕組みを作るのがコツのようで、仕組みがないと子どもたちを集めるのは難しいのかもしれないですね。子どもたちはスポ少などで忙しいですし、活動の度に親御さんも駆り出されますしね。

和田会長：小学校に年間10時間ほど教えに行く事もありますが、以前に比べて難しさを感じます。子どもの時間割に合わせて行くわけですし。

昆事務長：黒岩では小学生にこの時期に集中して1週間みっちり教えています。あとは出演依頼があればその都度練習会を行うという感じですね。

市長：中学生への指導の例はありますか。

和田会長：中学生はほぼ夜の練習ですね。スポ少ですが。

教育長：北上中学校では毎年運動会で学校剣舞を続けています。

市長：まだ続けていますか。私もやりました。

教育長：それから江釣子中学校では毎年芸能発表会があります。早ければ6月から週1回練習し、8月に発表会を行っています。今年で37、8回続けていますが、これは行政区ごとに剣舞や神楽を行っています。

市長：それは素晴らしいですね。発表の機会を確保しているのが大きいのでしょうか。

和田会長：一つの地区に剣舞、神楽、田植踊りがあったりするので、どれかを選ぶのが難しいです。

市長：鬼剣舞は人が集まってくるのでは。

菅原副会長：鬼剣舞はまだよいのですが、他の芸能は苦しい状況にあり、全体の底上げが必要です。その中でも上手くいっている団体があるので成功事例を共有する研修会を開こうとも考えますが、先立つものがありません。

市長：次は活動資源の問題になってくるのですね。これも仕組みを作る必要があると思います。昔は分かりませんが、今は市としては団体の活動に対する補助は行っていません。ただし、市と団体が同じ方向性を目指す、いわば協働の事業に対してはお互いに資源を出し合います。つまり、団体は人を出し、行政がお金を出すということです。ですから、そのために芸能の伝承の仕組みを考えていただけませんか。市民が共感を得ることができる、問題の解決に向かう構想であれば、財源を出すことは可能かもしれません。単に活動に対して補助金を出すというのは市民からの理解が得られないでしょうから。

菅原副会長：何かを始めないといけないという危機感を持っています。外部から講師を呼んで話を聞くなどしても、続けるうちに新しいアイデアが生まれるかもしれません。

市長：そうですね。活動を休止した団体の活動再開の支援というの也被考えられるかもしれません。そのためにも団体としてお金を集める仕組みを考えなければいけないと思いますが、その辺はどうですか。

和田会長：今は文化芸術振興費補助金というものがあり、それを使って子ども剣舞や「鬼よ燃えろ！冬のみちのく芸能まつり」を実施していますが、打ち切られたら大変です。

市長：それはどこから出ているものですか。

高橋文化財課長：文化庁に申請して北上市には700万円くらい出ています。また、民間の財団でも衣装の整備等に40～50万円の助成制度があります。

昆事務長：そういったものは申請の際の書類が多く、手続きが難しいです。誰かやってくれる人がいればよいのですが。

市長：お金は掛かるかもしれませんが、市民活動情報センターでお手伝いしてくれますよ。

(2) 学校の統合と各地区の芸能の継承

田鎖副会長：やはり、後継者問題が頭から離れません。学校で教えようと思っても、時間帯の制限もあり指導が難しい現状があります。いわさき小学校のように上手くいっている例もあるようですが。

市長：学校授業で行うのは難しいのでしょうか。いわさき小は他の授業の時間をそちらに振り分けているのでしょうか。

教育長：いわさき小は統合にあたり、地域の芸能の伝承について地域と学校が話し合いをしました。煤孫地区のひな子剣舞は残したいし、岩崎鬼剣舞も伝統があるしと。その結果、4年生までは岩崎地区の子どもも、煤孫地区の子どももひな子剣舞を習い、5年生からは岩崎鬼剣舞を習うということに決めたようです。

和田会長：地域によっては学校の統合の際に選ばれる芸能とそうでない芸能に分かれるので、両方ともやらないという意見になることがあると聞きます。

昆事務長：黒岩もこれから統合の問題が出てきますが、統合する黒岩、立花、口内、稲瀬の各地区にそれぞれの芸能がありますから、これをまとめるのは至難の業です。特に人数の少ない団体は危機感があるだろうと思います。

菅原副会長：教育委員会として地域の伝統芸能を守ろうという方向性を打ち出すことはできるのですか。

教育長：現在、教育委員会では北上市教育振興基本計画の後期計画を策定中ですが、基本目標は「郷土を愛し未来を拓きいのち輝く人づくり」ですので呼びかけしております。

市長：郷土といっても、農業体験や景観学習など多方面から声を頂いているので校長先生は大変だと思います。その中で、周りから「うちの学校はこれで行きましょう」という「うねり」を作ることができればよいのでしょうか、そのためにもスポットライトを浴びる公演の場の確保は重要ですね。その一つが芸能まつりなんではないでしょうか。

(3) 民俗芸能ファンの拡大

和田会長：石川県輪島市には御陣乗太鼓といって毎日どこかで太鼓の公演があります。北上にとっても芸能は大きな財産ですし、毎月どこかで公演があると、目に触れる機会を増やしたいですね。

市長：先日はスキー場でも踊っていただきましたし、イベントがあれば鬼剣舞をお願いしていますね。

昆事務長：去年は黒岩の9団体で一日公演して、交流会を行い、大いに盛り上がりました。資金的にも苦しかったのですが、楽しかったという声を頂いたのもまたやりたいとは思いますが、お金はないし、補助金の申請は大変ですしね。

市長：やはり、資金を集める仕組みを作らないと。市民サポーターに協力してもらえるような。

昆事務長：ネットで資金を集めることができる時代ですから、スポンサーがついて御礼に公演したり、そういった仕組みができればよいのでしょうか。

和田会長：神楽なんかはコアなファンも多いですね。

市長：昨年度のふるさと納税額は5億円を超えました。こういった制度を活用して、北上出身者を含めた全国のファンからサポートしてもらえる仕組みですね。公演の際には必ずおひねりをもらうような文化を作るとか。

その他

菅原副会長：公的公演の謝礼金ですが、部署によって単価も異なっています。統一できませんか。また、子どもの公演についても単価を検討願います。

市長：市で依頼するものについては統一できると思います。各実行委員会については市ではこうしていますよというお知らせになろうかと思います。

昆事務長：芸能まつりの参加団体の決め方について知りたいのですが、当連合会の加盟団体が選ばれていない一方で未加盟団体が選ばれています。加盟促進を呼びかける立場としては疑問を感じます。

市長：芸能まつりについては、実行委員会が主催しているので強くは言えませんが、プログラムの作成を連合会にお願いできればよいのでしょうか。

ふりかえり

教育長：本日は学校教育に伝統芸能をどのように取り込むのかという大きな問題を提示いただきましたが、今後も小、中学校の伝統芸能の継承について検討を進めたいと思います。これまでの経過を見ても、連合会の皆さんの御協力は子どもたちの健全育成に大きく貢献頂いていると感じます。

市長：色々と難しい課題もありますが、アイデアを出しながら仕組みを作りたいと思います。ぜひ、この場に限らずアイデアを出していただき、それが実になるよう動きたいと思います。